第15回インフラツーリズム有識者懇談会 議事概要

令和7年7月18日

(資料1 モデル地区における取組のフォローアップについて)

【篠原委員】

- ・ モデル地区卒業後、地域が育て上げ、新たな魅力をつけるための工夫を考えながら、来ていただいた方に地域も回ってもらい仕組みづくりがどうなっているかということが重要だと思う。

【河野委員】

- ・ インフラツーリズムの推進の目的には、インフラへの来訪者や住民の理解促進という定性的指標と、ツーリズムを活用して地域の経済効果を生むという経済的指標の両側面がある。インフラのタイプや立地特性から、必ずしも経済効果のみを「成功」とすることにも違和感があるため、それぞれの効果をきちんと個別に測定できるとよい。

【阿部委員】

- ・ モデル施設での進歩は、後世に残るレガシーが生まれているという見方もできると思う。インフラツーリズムをこれからどうしていくかという議論の中で、これまでの取組とその結果を位置づけていく必要があると思う。

(資料2 振り返りと今後の進め方について)

【河野委員】

- ・ 過年度から現在に至るモデル地区への拡大支援等に対して大きな疑問はない。ただ、「ターゲット層の拡大」という目標については、地域側の意向はあると思うが、コンテンツの魅力度や往訪・見学利便性にニーズは左右されるため、共通で目標化する場合の方策は悩ましい。広報は、これまでの振り返りも含めて非常に重要だと捉えている。個々のインフラによる広報では発信量と対象に限界があり、広く市場に情報が届きにくいことから、インフラツーリズム全体を束ねた広報展開できることが理想ではある。
- ・ インフラツーリズム意見交換会は、非常によい取組だと思う。特にこの中で自治体・民間・施設管理者等、誰でも対象になるという点が非常に重要であり、こういう取組

と、インフラツーリズム全体の広報が連動して動いていくというようなトータルの事業設計ができるかというのではないかと思う。

【篠原委員】

- ・ インフラツーリズム有識者懇談会の設立から8年が経過しており、設立当時に比べ、もう少し明確に目的が見えてきていると思う。
- ・ 国土交通省が伝えたいことはインフラの価値を国民に分かりやすく伝え、激甚災害から命を守ってもらいたいということだと思う。それからもう一つは、地方創生につなげていくこと、インフラ施設が観光のコンテンツとして育ち、地域の回遊性を高めることにつなげていくことが目的だと思う。

【阿部委員】

- ・ インフラツーリズムという言葉自体は大分広がってきている。
- ・ インフラツーリズム推進地域や特区といった枠組みや制度設計を狙っていくのか、あるいは現状のように、専門家派遣の取組を続けていくのか。やりたい人はいて、アイデアはあるけれど、それが受け止め切れているか。一方でモデル地区を継続するとした場合、どの辺を狙っていくのか。どこを深めていくのかという論点をもう少しシャープにしたほうがやりやすいと思う。

【清水座長】

- ・ 何を軸にするのかというのは立てつけとして確認しておく必要がある。
- ・ まだ人数は増やしたいのか。新しいターゲット層となると、既にある程度取組実績があるところに新しい要素を加えるというような支援をしていくということか。

【河野委員】

- ・ 新たにモデル地区の取組をする場合は、今後インフラツーリズムの推進を目指していくどんな立場の方々のために、どういうパターンのモデルが必要か、といった目標やイメージをセットする必要があるのではないか。

【清水座長】

- ・ 全国にいろいろな担い手がいて施設があり、その中で、この懇談会として重要なものは何かを絞っていく必要がある。

【清水座長】

- ・ 事務局のほうで引き続き次回に向けてこの案をブラッシュアップしていただきたい。

以上